

# 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	0471400168
法人名	社会福祉法人やすらぎ会
事業所名	グループホームやすらぎ
所在地 (電話番号)	宮城県東松島市大塚字長浜269-1 (電話) 0225-86-2270
評価機関名	特定非営利活動法人介護の社会化を進める一万人市民委員会宮城県民の会
所在地	仙台市宮城野区榴岡4-2-8 テルウェル仙台ビル2階
訪問調査日	平成19年7月27日

## 【情報提供票より】( 年 月 日事業所記入)

### (1) 組織概要

開設年月日	平成 14 年 4 月 1 日
ユニット数	2ユニット
職員数	17人
利用定員数計	18 人
常勤	15 人
非常勤	2 人
常勤換算	16 人

### (2) 建物概要

建物形態	○併設/単独	○新築/改築
建物構造	木造造り	
	階建ての	1 階 ~ 1 階部分

### (3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	15,000 円	その他の経費(月額)	円	
敷金	有( 円)	○無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有( 円)	有りの場合 償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	円	昼食	円
	夕食	円	おやつ	円
	または1日当たり 1,000円			

### (4) 利用者の概要( 月 日現在) 7月10日現在

利用者人数	18 名	男性	6 名	女性	12 名
要介護1	3 名	要介護2	9 名		
要介護3	5 名	要介護4	1 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 84.6 歳	最低	74 歳	最高	96 歳

### (5) 協力医療機関

協力医療機関名	佐幸内科胃腸科小児科医院、塩竈市立病院、赤坂病院(精神科、神経科)
---------	-----------------------------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

松島湾の浜に面して瀟洒な特養ホーム・デイサービス等の建物と並んで平成14年開所。広い個室にトイレ・洗面所があり、家から持ち込まれた家具や装飾で各人の住まいが形作られている。庭の畑、東名運河にかけての散歩道、避難所や公園、スーパーマーケットなど出かける環境に恵まれている。「美味しいものを食べてもらう」を眼目とし、ケアプランの見直し、服薬やバイタルチェック、緊急時の対応など肝要な事が着実に実行される仕組みを作っている。職員の15分の休憩や退去時間の励行は優しさの維持に繋がっている。しかし、介護の世界に「十二分」はありえない。限られた要員で工夫・改善を模索し、常により満足度の高い暮らしを目指すことが求められることを自覚し、一層の努力を期待したい。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回要改善として指摘されたところはなかったが、今回も基本的には介護の基本とされることを確実に押さえる体制を堅持している。ただ、常に危険と隣り合わせの介護の世界で「これでよし」ということはないと考えられる。個別のケア、より豊かな日常づくりに更なる意欲を持ち続けられることを期待したい。</p>
	<p>今回は地域密着型施設のサービスのあり方として、地域住民、自治体との交流連携を強めることが求められている。それを意識した取組みが各所に見られたが、まだ緒に就いたところで、運営推進会議の意義を理解し、これを活用する工夫が求められる。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議は、入居者、家族、住民、町職員の構成で開催されているが、施設の透明性と個人情報保護との関係で苦慮し、一歩引いている感がある。ホームは入居者と職員の間では「家庭」に近いが、地域の中で「普通の住居」と認知されるには至っていない。近所付き合いが日常化するには時間も必要だが、運営推進会議を活用することも一考かと考える。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>ケアプラン見直し1ヶ月前から家族の希望を取り入れ準備をしているし、毎月行う入居者の近況報告・金銭報告のほか、2か月1回「やすらぎ新聞」を送付、電話連絡や家族から入居者に電話をかけてもらう働きかけをするなどきめ細かな配慮がうかがわれる。家族会が組織されバーベキュー等の行事も行われている。職員は今後さらに食事内容や職員の異動など、家族への情報提供の密度を上げたいとしている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>災害時に駆けつけてくれる協力者や避難場所の指定、消防署や協力者を含めた法人ぐるみの夜間防災訓練の実施、地域の食事会や老人クラブへの参加、隣接しているデイサービス利用者との交流、祭や運動会など地域の行事への参加等積極的な働きかけをし、ホームが地域に溶け込みつつある様子がうかがわれる。</p>

## 2. 評価結果（詳細）

（  部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	隣接する同法人の施設全体としても「グループホームやすらぎ」独自としても地域と密接な協力関係を保つことでお互いに益することを認識し、地域との協働をめざしている。また、入居者にとって地域や家庭との結びつきを重視した暮らしを追求している。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者はじめ同法人の職員全体が同じ理念の下に協働する取り組みがなされている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	老人クラブ、学校、保育園等地域の諸行事に参加したり、隣接のデイサービス利用者との交流を図ったり、住民との交流・交歓に努めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価に職員がみんなで取り組み、自分たちの接し方について点検している。今回の評価についても特別の職員体制を敷いて、施設長他3名の職員で対応していただいた。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議において、日常の状況報告をする中で改善すべき点に気付いたり、入居者や家族の思いを汲み取ったりしているが、運営推進会議の意義を充分理解し、これを活用して地域との関係作りに積極的に取り組むには至っていない。	○	グループホームの機能を地域に充分理解されるために、運営推進会議を通じ、また地域への直接的な働きかけを強めることによって、地域住民との一層の協力・協働関係が築かれることを期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	<p>○市町村との連携</p> <p>事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる</p>	<p>市の関係者との関係は密で、サービスを必要とする人の情報交換やサービスにつなげることがスムーズに行われ、施設の透明性も確保されている。</p>		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	<p>○家族等への報告</p> <p>事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている</p>	<p>家族の面会が多くあるが、疎遠な家族には月1回の報告や「やすらぎ新聞」の送付のほか、電話連絡をしたり、入居者宛てに電話をしてもらうよう働きかけをしたりしている。入居者に変化があった場合は即刻連絡している。</p>		
8	15	<p>○運営に関する家族等意見の反映</p> <p>家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている</p>	<p>ご意見箱も用意され、家族に直接気付いたことを話してくれるよう働きかけはしているが、家族が率直に不満を語ることは難しく苦慮している。運営推進会議や家族会を活用し、率直な意見交換ができるようにしたいとのことである。</p>		
9	18	<p>○職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>	<p>職員の異動はさして多くはないが、法人内の異動も含め入居者の不安要因になっている。その不安軽減のため異動後も前職場の入居者を訪ねたりしているが、今後は事前事後の入居者との話し合いや家族への報告を丁寧に行い、不安軽減に努めたいとしている。</p>		
5. 人材の育成と支援					
10	19	<p>○職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>	<p>介護福祉士、介護支援専門員等の資格保有者が多く、また、隣接施設の看護師、栄養士との協働によって知識の習得を図っている。なお研修や資格取得希望が多いようなので、法人として一層の支援対策を強められることを望みたい。</p>		
11	20	<p>○同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>	<p>法人内での職員の交流・協働はおこなわれているが、研修は老人福祉施設協議会の域に止まっている。研修は職員の意欲を起こさせ、介護の質の向上への大きな要因となるので、外部職員との交歓・研修の機会を積極的に企画されることが望まれる。</p>	○	<p>相互訪問・交換体験介護・小規模研修会など手軽で効果的な研修・交歓を工夫し、常に学び合い意欲の向上を図ることが今後の課題と思われる。</p>

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前に家庭訪問を行ない、また、お茶のみに来訪してもらったり、体験的ショートステイを行うことを経て入所に至るなど、家族と相談しながらその人に合ったリロケーションダメージ対策を行っている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	畑仕事に自信のある人、魚おろしのうまい人、食事作りや後片付けの好きな人など特技は活かし、できることは職員とともにしてもらうよう努めている。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人の意向を聞きながら行動を引き出すよう努めている様子が見受けられる。例えば、入浴は好きな時間に好きな職員の介助でということをしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	ケアプランの作成には1ヶ月前から状況の変化、家族の意向、職員間の話し合いで評価を記し、担当職員と介護支援専門員との話し合いで見直しを行うことがケース記録で明確になっている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	見直しは3ヶ月ごとに行い、状況の変化がある場合は必要に応じて行っている。家族の意向を反映して行われていることは家族アンケートにも多く現れている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	グループホームとしてもショートステイの受け入れはあるが、隣接の同法人施設全体で体調の変化や必要性に応じた柔軟な受け入れ態勢を作っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	近くの内科医による往診が可能であり、緊急入院も含め協力病院2院が確保されている。従来かかっていたかかりつけ医への通院は家族で対応することが原則だが、必要な場合の支援体制も確立されている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化した場合は、特浴設備のある隣接の特養ホームでのケアがベターであるからと、基本的にはターミナルケアを考えていない。今後は社会的要請として在宅と共にホームにおけるターミナルケアが求められるし、ホームで最期を迎えたいと希望する人が増えることも予測される。今後の課題として考慮いただきたい。	○	医療機関との連携も良く、隣接施設の看護師の支援も得られやすいという利点を活かし、来年度の医療制度改革に向けての準備としてもターミナルケアへの対応をお考え願いたい。
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	居室にトイレがあり、居心地よい空間を作る余地があることは、尊厳維持の基本をまずクリアしている。言葉かけは丁寧かつ穏やかであり、記録の取り扱い、外部からの電話にもプライバシー保持に気を配っている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	畑づくり、散歩、ドライブ、日常の手伝いなど個別に状態をみて働きかけをしており、安心して穏やかな表情で過ごす入居者の様子が散見された。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	ユニットごとに入居者の希望をとりいれながら献立を立て、おいしいものを提供する努力をしている。週2回フリーメニューの日には、みんなで考え一緒に食材を買いに行くなど、食べる喜びの共有を図っている。食後のかたづけも自然に行う状況が見られた。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜以外の毎日入浴でき、午前を希望する人にも対応している。夜間は人員の都合で行っていない。希望者には同性介護も受け入れている。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	農家出身者には畑仕事は何より楽しみであり、収穫物は食前を賑わしている。散歩、ドライブ、外出時の外食など出来るだけ希望に添っている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	散歩やドライブ、フリーメニューの日の食材の買出し、地域の食事会や老人クラブへの参加など個人の希望を出来るだけ叶え、機会をつくる努力をしている。		
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	居室から庭へ自由に入出りできるし、日中は玄関に鍵を掛けていない。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回は法人ぐるみ、夜間の避難訓練を実施。消防署の協力で夜勤者が緊急連絡網で職員・地域の協力員に連絡・召集、入居者の避難を行う。その他事業所ごとの訓練もある。非常食や飲料水を備えている。また水害時の避難マニュアルがあり、周知を図っている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	献立はユニットごとで作っているが、隣接施設の管理栄養士にチェックしてもらい、且つ食事や水分の摂取量を記録して栄養管理をしている。個別の状態に合わせ粥食、とろみ付けなど、考慮している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	全体にスペースがゆったりとっており、高い天井、通風採光のよいこと、木のぬくもりを活かした造りになっている。靴脱ぎの床几台、一休みする椅子、ベランダやウッドデッキの手すり、のれんや観葉植物、さりげない壁の装飾など住み易さと家庭の雰囲気づくりの工夫が施されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	各居室のトイレ洗面所と部屋のしきりに障子があるのは、部屋の雰囲気づくりと同時に明り取りになっている。部屋にも洗面所にも低い位置に棚があり、用途が広い。各人が好みの箆笥、鏡台、テレビ、椅子などを持ち込み生活感のあるスペースを形作っている。		